

佳作

時代に負けない

新潟県糸魚川市立糸魚川東中学校

3年 小松 沙羅

「違う職業にしたら」「大変なんだよ」親として子どもの将来を心配する優しさだったのだと思います。しかし、当時の私には「保育士になる夢は諦めろ」と、強く言われたように聞こえ、ショックで涙が流れました。

私の住んでいる地域では、少子高齢化が加速しています。私が小学校3年生の時は、近隣の小学校と合併しました。その他、総合病院から産婦人科がなくなるなど、少子化を感じる出来事がたくさん発生しています。このような現状もあり、家族は私の夢に反対したのかもしれませんが。

私が保育士を目指し始めたのは、保育園の年長の頃です。不機嫌に登園する私を、先生は毎日優しく迎えてくれました。「何かあったの」と話をたくさん聞いてくれました。この時間は、私のエネルギーとなる幸せな時間でした。私も優しい保育園の先生になりたいと思うようになりました。その頃は父や母、祖父母も、私の夢を笑顔で聞いてくれ、応援してくれました。しかし、小学校高学年になると、家族の反応は少しずつ変わっていきました。

「まだそんなことを言っているのか」「子どもは少なくなる一方なんだぞ」と、否定の言葉を言うようになったのです。そのような中でも、私は小学校高学年から夢に向かって主体的に学び始め、県内の専門学校の情報や国家資格の取り方、保育士が不足している現状などを調べました。それを家族に伝え、夢への気持ちは本気だと伝えるように、努力していきました。それでも、私の夢をかなえたいという思いは家族に伝わらず、否定しかされないことに、恐怖すら覚えました。次第に家族に夢を語ることはなくなっていきました。

現代はテレビ、新聞だけではなく、インターネットからでも情報を得ることができます。インターネットと向き合っていると、社会問題や戦争など、未来が不安になる情報が溢れかえっています。その事実と対面した時、夢を持ち続けられるのか、不安でいっぱいになります。また、自分が大人になった時、将来就きたい仕事があるという保障はどこにもありません。それでも努力し続ける。これはすごいことではないでしょうか。大人の皆さん、私と同じように夢に向かって頑張っている子どもたちに、エネルギーとなる言葉をかけてください。人からの励ましは、また頑張ろうというエネルギーになります。家族からの言葉は、その何倍、何十倍にもなります。子どものことを心配し、もっと現実を見なさいと伝えるのは、大切なことです。でも、覚悟を決めた子どもに否

定の言葉ばかりをかけないでほしいです。挑戦する気持ちを奪わないでほしいです。

最近になって、家族はやっと私の本気を理解してくれ、応援してくれるようになりました。また、今努力すべきことを一緒に考えてくれるようになりました。

大好きな作品、『ハリー・ポッター』にこんな言葉が残されています。「夢に浸って、現実を生きることを忘れてはならない」この言葉には「過去や未来にとらわれず、今を生きることが重要である」という意味が込められていると思います。私はこの言葉に出合った瞬間、大切なことを教えてもらったような気がしました。私たちは過去でも未来でもない。「今」を生きているということ。

将来、私にとってこの職業に就くことがよいのかどうかは分かりません。でも、何より、私は子どもが大好きで、子どもと関わること、一緒に成長していくことが楽しみで仕方ないです。そして、夢がかなったら、子どもの意見を尊重し、子どもが笑顔になるような、子どものパワーとなるような言葉をかけてあげられる、そんな保育士になりたいです。いつもそばで応援し、いつも味方でいてあげられる。かつて私が憧れた、優しい保育士になりたいです。